



# 真生会富山病院

## 地域連携だより

第6号

2014年3月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinseikai.jp/>



### 医療とこれからの連携



副院長  
(免疫・血液内科専門)

なつづか としき  
刀塚 俊起

日本の医療環境は、変化を加速させています。平成26年度の診療報酬改定の基本方針には、「医療機関の機能分化・強化と連携を推進」を謳っています。病院を機能によって分化させるという方針です。よい医療を提供するには、これまで以上に医療機関同士の連携が重要になってきます。現在の連携室を通しての付き合いから一步前進して、地域の医療機関がどのような機能を持ち、どのような患者を受け入れることが可能なのか、どのような分野の医療が得意なのかなど、お互いに理解していかなければ、よい連携はできないのではないかと考

えます。患者さんを安心して紹介しあえるような信頼関係がなければなりません。

まず今年は、「真生会富山病院で行われているのはどのような医療か」ということを、地域のもっと多くの医療機関の方々、住民の皆様にご存知になっていただく活動に力を入れていきたいと思っています。

地域医療部では、各医療機関への訪問を始めています。また、当院のホームページを全面的にリニューアルし、よりわかりやすく、充実した内容にする予定です。これらの活動を通じて、当院でどのような医療が行われているのかを広く紹介していきたいと思っています。地域の医療機関と連携し、信頼関係を強くもって患者さんの紹介を行えるように努力していきます。

これからもどうぞよろしくお願いたします。

## 地域医療部より

### ～ 第2回地域連携交流会で寄せられた励ましのメッセージ ～

昨年10月に開催した「第2回地域連携交流会」に参加された介護支援専門員（ケアマネジャー）より、医学講座のアンケートやグループワークの中で頂いた「声」を紹介します。

- ☆糖尿病の方は、あらゆる合併症もあり、ケアプラン作成の際に医療との連携も必要なので、糖尿病の知識をより深め、よりよいケアに向けて取り組んでいきたい。
- ☆糖尿病療養指導士の方がおられてすごく安心。
- ☆相談しやすく助かる。
- ☆入院してすぐに退院調整ではなく、色々な方向性で考えてもらえて家族も喜んでいました。在宅が可能かもみてもらい、希望通りに自宅へ戻ることができた。「何かあった時も真生会へ」と返事を返してもらえて良かった。
- ☆医師、看護師、医療ソーシャルワーカーそれぞれ解決のスピードが早い。
- ☆患者本人だけでなく、妻への対応もしてくれた。
- ☆一緒に考えてくれる。
- ☆医師に電話をつないでくれるので、気軽に頼める。主治医意見書のこと、電話で身近に相談できるのでありがたい。
- ☆往診（訪問診療含む）をしてもらっている本人、家族は喜んでいて、助かると言っている。
- ☆訪問看護（ステーションところ）と真生会の連携が取れている。何かあってもすぐに看護師が医師へ連絡を取ってくれるので助かっている。

ご意見を多数いただき、ありがとうございました。

### ～ Q&A コーナー ～

第2回地域連携交流会で出されたご質問に対する回答

Q 1 主治医意見書問診票の枚数が多く、一般の人には分かりにくいです。

(回答) 問診票の内容を少なくし、分かりやすく改めました。お手数をおかけしますが、主治医意見書を正確に記載するため、今後ご協力をよろしく願います。

Q 2 介護保険の主治医意見書の依頼窓口はどこですか？

(回答) 今まで各科の窓口でしたが、現在は総合受付でご依頼を承っています。

Q 3 インフルエンザ予防接種は夕方の集団接種のみですか？

(回答) 集団接種に都合がつかない方の為に内科外来でも一部実施しております。健診センターにお問い合わせください。

Q 4 入院中の方の退院前カンファレンスの日程調整の依頼は、病棟看護師か、地域医療連携室か、どちらにすればいいですか？

(回答) カンファレンスは病棟看護師が調整していますので、病棟にご連絡下さい。

Q 5 ご意見箱の場所が分かりにくいです。

(回答) 本館1階患者図書室手前の壁際に設置しています。ご意見やご要望など、お寄せください。



## 真生会富山病院からのお知らせ

\* 当院では、小児科の入院治療は行っておりません。

\* 2月1日より、火曜日、木曜日の夕方は内科、歯科以外の診療科は休診となりました。

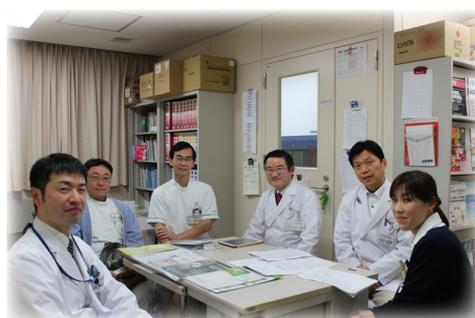
ご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願いたします。

## 薬剤委員会の活動

薬剤委員会は医師3名、薬剤師2名、看護師1名で構成され、2ヶ月に1度開催しています。委員会では当院の医薬品の採用・不採用の決定を行い、病院の健全な運営に寄与することを目的として活動を行っています。目的遂行のため、委員会では以下の点を重視しています。

- ・医療安全の面から、院内外の医薬品に関するインシデント、アクシデントを踏まえて、安全に使用できる医薬品の選定を重視
- ・コストの面から、病院支出の大きな割合を占めている医薬品購入は同効薬や使用頻度の低い薬品等を不採用とすることで無駄な支出を抑える
- ・医療費抑制の観点から後発品の使用が推奨されているため、何種類もある後発品から適切なものを選定

現状の課題として、採用薬品の整理継続と、非常勤医師への情報発信不足が挙げられます。今後も適切な委員会活動を目指して努力していききたいと思います。



## 院内託児施設「木の子ハウス」の紹介

保育課 課長 橘真知子

木の子ハウスは、病院で働く職員のお子さんを預かる託児施設です。あどけない乳児、かわいい幼児、そしてわんぱくな学童児を預かっています。保育理念に、“愛に包まれたひとつの大家族のように、いつも子どもの心に寄り添い「育つ力」「可能性」を信じて心をこめて生きる力を育みます。”とあります。子どもを安心して預けられる環境を整え、子育ての連携・協力を重視しながら、いつも保護者と一緒に喜び・悩み・感動を分かち合い、保護者の良きパートナーとなれるよう心がけています。私たち、大人が忘れてはならないのは、どんなに小さな乳児や幼児も、一人の立派な人間であるということです。一人ひとりの子どもの心を大切にしながら、輝く目、微笑みのある子を育てていきたいと思っています。やがて次の世代を担う子どもたちが、頼もしく健全な心の持ち主に成長してくれることを願いながら日々の保育に努めます。

